

## 第1回水稲病害虫発生状況の調査結果について

兵庫県農業共済組合佐用事務所  
兵庫西佐用営農生活センター  
光都農業改良普及センター

令和6年6月25日

## 1 水稲の生育状況

今年の気象状況を見ると、4月までは平年以上の高温となる日がありましたが、5月に入ると平年並となっています。梅雨入りは気象庁の速報値では平年より15日遅い6月21日となりました。今後しばらくは不安定な天気が続く見込みです。

水稲の生育は5月上中旬の早い田植え、5月末以降の田植え共に平年並でおおむね順調です。

## 2 調査結果(調査日6月25日)

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
紋枯病	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
縞葉枯病	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
ウンカ類	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
ツマグロヨコバイ	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
ニカメイチュウ	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
カメムシ類	一部のほ場で発生がありました。例年に比べ発生数が多いのでご注意ください。

## 3 これからの管理について

- ① 兵庫県病害虫防除所が6月10日に出した「病害虫発生予報第2号」ではヒメトビウンカと葉いもちの発生予想は平年並となっています。6月10日、11日、にいもち感染好適条件の日がありました(BLASTAM 情報)。
- ② 5月上旬田植えの水稲では、これから箱施用剤の効果が薄れてくるため、今後降雨や曇天が続く場合はいもち病が広がる心配があります。常発地帯ではこまめにほ場を観察し、必要であればウンカ防除も含めてコラトップトレボン粒剤(3~4kg/10a)を早めに散布しましょう。また、補植用の苗はいもち病の発生源になりますので、すぐにほ場から持ち出し処分して下さい。  
※ 田植え時に箱施用剤を施用していないほ場は特に注意しましょう。
- ③ 5月上中旬田植えのコシヒカリ、キヌヒカリは、最高分けつ期を迎えようとしています。一株当たりの茎数が18~20本になったら、中干しを実施して下さい。